

# UTSUNOMIYA **Blitzen** TIMES

September.2022

Vol.76



## Race Report

- 08.06 コーユーレティアオートポリスロードレース
- 08.07 コーユーレティアオートポリスロードレース
- 08.14 JCL BANK LEAGUE 京都ステージ
- 08.20 Shimano "Suzuka" Road Team Time Trial
- 08.21 Shimano "Suzuka" Road ロードレース

## Special Present

今日の沼野郎 堀 寿明  
Race schedule



# 東西の雄が京都に集結！ 宇都宮ブリッツエン堂々の準優勝



日本初のトラックレース対抗戦「JCLバンクリーグ」の決勝戦。7月2日に宇都宮競輪場で「東日本ラウンド」が行われチームは完勝し、レバンテフジ静岡と兵に決勝へ。8月3日に別府競輪場（大分県）でも「西日本ラウンド」が行われ、スパークルおおいた、キナレンディングが勝ち上がった。この4チームによる最終戦が「決勝ラウンド京都ステージ」だ。決勝のメンバー構成は小野寺玲、貝原涼太、宮崎泰史、堀孝明、及川一織。バンクリーグは1チーム4名、2チーム同時にバンクを出走。3、5、7、9、11周目を先頭通過した選手に1ポイント、3ポイント先取したチームが勝ちとなるルールだ（レース同選手は最大2ポイントまで獲得可能）。

## 第1レース vs スパークルおおいた

小野寺、貝原、及川、宮崎が出走。優勝候補筆頭のスパークルおおいたから沢田桂太郎選手が外側から仕掛け1ポイントを先制。チームも小野寺に引つ張り上げられた貝原が1ポイントを取り返すものの、沢田選手も続くスプリント勝負を制して2ポイント目をゲット。それから両チーム2名ずつ先行する形となるが、今度は黒枝咲哉選手が抜け出すと3ポイント目。スパークルおおいたの勝利。

## 第2レース vs キナレンディング

メンバーは堀孝明、小野寺、貝原、宮崎。3番手から仕掛けた荒井佑太選手を貝原が追走。スプリント競いで1ポイント先制されたが、続くポイントは集団から飛び出した宮崎が獲得して同点に。そのまま逃げるところに山本大喜選手が追いつくものの、先にアタックした宮崎が2ポ



イント目を獲得。宮崎はポイント上限となり、それを見た山本選手が逃げて2ポイント目。同点の状態では小野寺が単独で勝負し、最後の1ポイントを手中に収めた。3-2で宇都宮ブリッツエンの勝利。

## 第3レース vs レバンテフジ静岡

堀、小野寺、貝原、宮崎で挑んだ最終レース。レバンテフジ静岡のモンゴルライダー、エンクタイワン・ポローエルデン選手が一気に加速。宮崎がそれを抑えながら単騎で抜け出し1ポイントを獲得。そのまま並走となるが、次も宮崎が力を振り絞り2ポイント連取。ポイント上限となったが宮崎は、貝原のアシストに回る。ポローエルデン選手に意地の1ポイントを獲得されるが、宮崎の牽引から飛び出した貝原が3ポイント目。3-1で宇都宮ブリッツエンが勝利した。

結果、全勝したスパークルおおいたがバンクリーグ王者に。宇都宮ブリッツエンは2勝1敗で準優勝となった。

### 宇都宮ブリッツエンリザルト

- 1-3 スパークルおおいた
- 3-2 キナレンディング
- 3-1 レバンテフジ静岡

### 【レース後の小野寺玲のコメント】

人数も予選より1人少なく、フルメンバーではなかったし、この決勝の勝負をするにはちょっと不利な編成ではあった。そんな中バンクリーグ決勝2位は、このメンバーでは最善の結果ではないか。初戦のスパークルおおいた戦は、脚の動きがあまり良くなかったが、僕と貝原でうまく連携して1点獲れたのは、上出来かなと思いたい。





# 沼野郎

選手や関係者が、  
今、「沼ってる」ものをご紹介！

キャンプで五感を研ぎ澄ます男  
堀孝明

皆さんは、自分を見つめ直す機会がありますか？ 周囲との関わりを一切遮断し、自身の内側に問いかけ、答えを出す時間です。もしそういう機会を求めらるなら、僕はキャンプをおすすめします。

2017年の夏、僕は奥日光の山でキャンプをしました。元々コーヒーの野点が好きで、外で豆を挽いたりもします。その年の夏キャンプは、どうせならトレーニングもしようと思つて自転車を持って行きました。朝起きたら山を下り、また上つての登坂練習。日に何度も繰り返してクタクタになりましたが、確かにコンディションは上がりました。日中はこうして時間が経つのですが、夜が大変です。キャンプ地を選んで場所は電気も電波もないところ。真っ暗な中で、ランタンの明かり1つで読書をするしかありません。でもこの時間が、自分を見つめ直すいい機会になりました。しかも、外界をシャットアウトし、不自由な環境の中にいると、日常のありがたみや、いかに僕たちが守られているのかもわかりました。寝ていると、テントを

狐に突かれた夜もあって、遠くでは常に動物の鳴き声が響いていました。当時は怖かったですが、枕元にハンマーなどを置いて寝た経験も、今となつてはいい思い出です。何度もそんな夜を繰り返すと、山を降りてからも、五感が研ぎ澄まされている自分にも気づきました。

今は忙しくてなかなかキャンプに出掛けられません。道具の物欲は止まりませんが、焚き火の火を見つめるのも好きなので、焚き火台はいくつか持っています。火を見ていると落ち着くし、ゆつくり考え事ができます。

もしまた時間をかけてキャンプに出ることができたら、岩の中腹にテントを張って過ごしてみたいです。5年前、山に1週間ほどいて「生きてる」ということを心から実感しました。天も地もわからなくなるような真っ暗な中で、またあの感覚を味わってみたいです。



焚き火台は写真のようにいくつかの種類を持っている。焚き火専用のものもあれば、調理できるものも



## Race & Event Schedule

9/3 (sat)	JCL 古座川町ロードレース	10/14 (fri)	ジャパンカップチームプレゼンテーション
9/4 (sun)	NISEKO GRAVEL	10/15 (sat)	ジャパンカップクリテリウム
9/9 (fri)	ツール・ド・北海道	10/16 (sun)	ジャパンカップサイクルロードレース
9/11 (sun)		10/22 (sat)	JCL 栃木県レース
9/25 (sun)	JCL 高知県宿毛市ロードレース	10/23 (sun)	JCL 那須塩原クリテリウム
10/1 (sat)	おおいたいこいの道クリテリウム	10/29 (sat)	JCL 山口ながとクリテリウム
10/2 (sun)	おおいたアーバンクラシックロードレース	10/30 (sun)	JCL 秋吉台カルストロードレース

## 私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。